

## 第9回東京環状道路有識者委員会について

日 時：平成14年8月9日(金) 10:00～12:15

会 場：ダイヤモンドホテル「エメラルド」

出席者：(委員長) 御厨 貴 政策研究大学院大学教授  
 (委員) 石田 東生 筑波大学社会工学系教授  
 越澤 明 北海道大学大学院工学研究科教授  
 中条 潮 慶應義塾大学商学部教授  
 森田 恒幸 国立環境研究所社会環境システム研究領域領域長  
 東京工業大学大学院教授

主な意見：

### ヒアリングについて

- ・既供用区間（埼玉県旧浦和市区間）の沿線住民 竹下 勝行  
 埼玉区間の地元住民と地元自治体、国、事業者からなる4者協議の経緯について報告。特に反対から受け入れへ変わった経緯を説明。
- ・国立環境研究所 プロジェクトリーダー 若松 伸司  
 環境影響評価には、不確実性が伴う。予測の不確実性を高めるには、予測値と実測値とを踏まえ、常に予測モデルを進化させていくことが必要である。その際、特に既供用区間の実態のデータを活用することが大切。ある道路の環境影響評価を行う際には、その道路が周辺道路にどのような影響を及ぼすか道路網全体での予測評価が必要であると説明。

### PIの状況について

#### PI外環沿線協議会について

- ・協議会の規則など入り口の議論で時間がかかり、運営が円滑でない時や議論がかみ合わない時もあるが、これは致し方がないことで、全体としては協議会の開催と議事進行は、評価できる。
- ・司会の立場の不明確さは信頼を失う要因になる可能性が高いので留意すべき。
- ・慎重さがフラストレーションの要因にもなっており、難しいところ。
- ・論点が出つつある。次回から論点を絞った議論ができるのではないか。
- ・議論のための論点は、協議会自らが出していく方がよい。
- ・住民からは長年の行政不信による発言が出ることも致し方がなく、互いの人間的な信頼感の醸成が協議会の運営にとって大事である。
- ・区市は国都と住人の間に位置して重要であるため、必ず、代理出席を含めて出席すべきある。

#### 今後の有識者委員会の方針について

- ・本年末に第2次提言をまとめる。そのため10月～11月に集中審議を行う。
- ・広域の世論も把握しておくことが必要。そのためアンケートを実施すべき。
- ・協議会での議論に必要なかつ十分な資料が出されているかの視点に立つべき。
- ・総合政策として交通と環境を同時解決するシナリオ、また長期的な視点での複数のシナリオの中から外環の必要性について国、都の考え方を提示すべき。
- ・外環の費用対効果を検討すべき。
- ・政治判断とは別の性格である専門家としての論点整理の視点に立つべき。
- ・今回は、行政からも、委員からも意見を出す。